

◆年頭挨拶◆

法人本部長

高橋 和也



昨年、令和2年の初めから日本でも新型コロナウイルス感染症が発生し、世界中で感染の拡大が続いている状況です。

この感染症は、「3つの顔」を持っており、これらが「負のスパイラル」としてつながることで、更なる感染の拡大につながっているとされています。

日本赤十字社が作成している「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！負のスパイラルを断ち切るために」の一部を紹介いたします。

このウイルスが怖いのは、「3つの感染症」という顔があるとされており、第1の感染症は「病気」そのもので、このウイルスは感染者との接触でうつることが分かっています。

そのため、一人一人が「手洗い」「咳エチケット」「人混みを避ける」などの衛生活動を徹底しましょう。

次に、第2の感染症は「不安と恐れ」で、このウイルスは見えませんが、ワクチンも海外でやっと接種が始まったところです。

分からないことが多いため、私たちは強い恐れと不安を感じ、振り回されています。

不安や恐れは身を守るために必要な感情ですが、冷静な対応ができなくなることもあるため、自分を見つめて、自分の安全や健康のために必要なことを見極めて自ら選択しましょう。

第3の感染症は「嫌悪・偏見・差別」です。

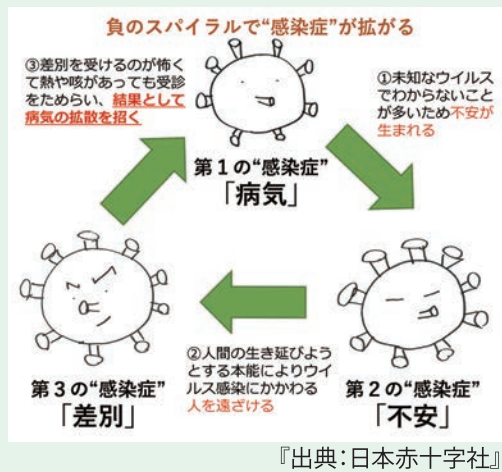
不安や恐れは人間の生き延びようとする本能を刺激します。そのことで、ウイルス感染に関わる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、人々との信頼関係や社会のつながりが壊されてしまいます。

不安を煽ることは病気に對する偏見や差別を強めるため、確かな情報を広め、差別的な言動に同調しないようにしましょう。

そして、感染を拡大しないように頑張っている医療従事者や治療を受けている人とその家族などこの事態に對応しているすべての方々をねぎらい、敬意を払いましょう。

このウイルスとの戦いは、長期戦になるかもしれませんが、それぞれの立場でできることを行い、みんなが一つになって負のスパイラルを断ち切りましょう。

そして、一日も早く感染が終息し明るい話題を共有できるよう一丸となって取り組みましょう。



医療安全推進週間

における取り組み

厚生労働省では 総合的な医療安全対策を強力に推進しています。その取り組みの一環として、11月25日を含む1週間を医療安全週間と定め、「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動」としての医療関係者の意識向上や、国民の皆さんの理解を深めていただくことを期待しています。

りんくう総合医療センターではこの事業の一環として、患者様への情報発信と全職員が改めて患者様の安全を守るためのより一層の意識向上のため、外来部門に各部署自作のポスターを掲示しました。掲示ポスターの点数は45点にのぼり、ご覧いただいた皆様の投票によって優秀作品が決定されましたのでご案内します。



▶優秀作品



ひとりひとりの“安全守”るリストバンド



あなたを守るネームバンド



私たちは、これからもひとりひとりの安全を守り続けます

▲優秀作品 (3枚1組)